

平成 22 年 9 月 9 日

9 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。本日は、私の方から 3 点申し上げます。
- まずは、先月 23 日に発生しました発電所構内の屋外におけるチップ材の火災につきましては、地域の皆さま、報道関係の皆さまをはじめ多くの方々にご心配やご迷惑をおかけしたことににつきまして、改めてお詫び申し上げます。

本件につきまして、今月 1 日には、火災の原因と対策および火災発生当日の対応状況について取りまとめ、新潟県及び柏崎市消防本部へ報告を行ったところです。

今回は、屋外における火災で、原因は自然発火によるものでしたが、今回のような要因により火災が発生するリスクがあることをあらためて認識し、発電所構内における集積可燃物について同様の問題がないか、再度チェックを行ったところです。

また、火災発生当初に、119 番通報や報道発表に時間を要したなどの課題も確認されましたので、今回の事案を踏まえて、しっかりと今後に生かし、速やかな対応を行っていくように努めてまいります。

なお、このたびの火災の発生を受けて、来週半ばには柏崎市消防本部による発電所構内の立ち入り検査が行われる予定と聞いております。その対応をしっかりと行ってまいるとともに、今回取りまとめました再発防止対策についても着実に実践し、火災の発生防止に全力を挙げて取り組んでまいります。

- 2 点目は、プラントの点検・復旧状況についてです。
5 号機につきましては、これまでにプラントの起動前に実施すべき点検や復旧、試験などを終え、各設備に問題のないことを確認してまいりました。こうした中、8 月 18 日に経済産業省原子力安全・保安院より、また、8 月 30 日には原子力安全委員会より、それぞれプラントの起動について安全上の問題はないことの評価をいただいた

ことから、翌31日に地元自治体へ運転再開のお願いをさせていただいたところです。今後は、県の審議状況や地元自治体のご意向を踏まえながら、適切に対応してまいります。

残りのプラントにつきましては、現時点では3号機の作業が比較的進んでいる状況です。例えば、3号機の耐震強化工事としては、8月27日に原子炉建屋天井クレーンの強化を終えております。また、9月3日には燃料取替機の強化工事が終了しております。現在、配管等サポートの強化工事を鋭意進めているところです。2号機、4号機につきましても、準備が整ったところから順次強化工事を進めている状況です。

今後も、一つ一つ着実に作業を進め、こうした状況については適宜皆さまにもお伝えしてまいります。

○ 3点目は、WANOピアレビューについてお伝えいたします。

当発電所では、先月19日から9月2日までの約2週間、[世界原子力発電事業者協会 \(WANO\)](#) のピアレビューを実施いたしました。

この期間、WANOチームの方々と私どもが一緒になって、発電所員や作業員の方々の操作や作業などを詳しく観察し、他の発電所の参考となるような、私どもの発電所の良い取り組みや、世界の最高水準と比較して、更に改善できるところについて議論を交わしました。

その中で、私どもの発電所は全般的に整備が行き届いており、良好な管理がされているとの感想をいただきました。優れた取り組みのひとつとしては、新潟県中越沖地震以降、多数の機器、設備の復旧や耐震強化に注力し、これを体系的かつ包括的に実施していることが挙げられました。また、更なる改善を目指すところとしては、①不適合の一步手前であるヒヤリハット事例や過去の失敗事例をもっと活用することや、②発電所員や作業員の方々の訓練の効果をより高める方法、③現場作業におけるヒューマンエラーをより一層防止するための方法などで、アドバイスをいただきました。

これまでも、さまざまな改善に取り組んでいる所ですが、この度のレビューを通じ、豊富な運転や保守の経験を持つWANOチームと世界の最高水準に関する議論を重

ねたことにより、私どもの発電所がより高みを目指すための価値のある情報をいただいたと思っております。

今後、このレビュー結果も活用し、「災害に強い世界に誇れる発電所」を目指しまして、改善に向けて取り組んでまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成22年9月)

平成22年9月9日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況										補足説明
			10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	運転中	第15回 H19.5.4～H22.8.4 停止期間 H19.5.4～H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第15回定期検査による停止										
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19～	第11回 H17.9.3～H18.5.9 停止期間 H17.9.3～H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止										
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19～	第9回 H18.5.12～H18.9.15 停止期間 H18.5.12～H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止										
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11～	第9回 H18.4.9～H19.1.11 停止期間 H18.4.9～H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止										
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24～	第11回 H17.7.4～H17.11.2 停止期間 H17.7.4～H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検査による停止										
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第8回 H19.5.24～H22.1.19 定検停止期間:H19.5.24～H21.8.31 (831日) H21.12.26～H22.1.8 (14日) (原子炉起動H21.1.6)	不具合調査のため計画停止										
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	運転中	第9回 H22.4.18～H22.7.23 H22.4.18～H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第9回定期検査による停止										燃料取り替えのため計画停止

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%)

(8月末現在)

8月	46.9%
22年度累計	33.1%
運転開始後累計	65.1%

③ 発電所発電電力量(万kWh)

(8月末現在)

8月	286,751
22年度累計	997,180
運転開始後累計	82,701,440

④ ドラム缶発生量(本)

(H22年度第1四半期)

当期発生本数	1,021
貯蔵庫累積貯蔵本数	29,577
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体)

(H22年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,820
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (9月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	873	2,751	50%
	刈羽村	82	310	5%
	その他	101	1,010	15%
	小計	1,056	4,071	71%
県外		96	2,011	29%
合計		1,152	6,082	—
		7,234		100%
協力企業社数(社)		852		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (8月末現在)

	8月	年度累計
地元	2,151	9,030
県内	1,591	7,411
県外	3,720	13,743
国外	31	318
合計	7,493	30,502

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
9月18日	Comfy サイエンススクール (カムフィー)
9月18日	第6回森づくり活動 (柏崎・夢の森公園)
9月23・24日	第142回名画鑑賞会 (柏崎エネルギーホール)
9月23・30日	ストレッチヨーガを体験してみよう (柏崎エネルギーホール)
10月9日	五感で触れてみよう、自然観察&ドラムサークル体験 (柏崎・夢の森公園)
10月10・11日	秋のふれあいイベント (サービスホール)
10月14日	次回定例所長会見予定

インターネットホームページアドレス

<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
広報部
0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成22年9月9日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	8月9日	4号機	排気筒付近（屋外）における病人の発生について（区分Ⅲ）	—
②	8月20日	7号機	運転中の7号機における「主蒸気隔離弁自動隔離警報」の発生について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成22年8月20日午前5時15分、定格熱出力一定運転中の当所7号機において、4区分ある「主蒸気隔離弁自動隔離警報」のうちの1区分から警報が発生しました。 直ちにプラントの運転状態を確認したところ、主要なプラントパラメータ等に変動はなく、実際に主蒸気隔離弁は動作しておらず運転状態に異常がないことから、主蒸気隔離弁を自動で閉じる制御回路の基板等の軽微な故障と判断しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 故障した制御回路の基板の特定に関する調査等を行い、特定した基板の交換を実施し、正常な状態へ復旧しました。</p>
③	8月23日	1号機	運転中の1号機における一時的な電気出力の変動について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成22年8月21日午前2時44分頃、定格熱出力一定運転中の当所1号機において、一時的に電気出力が約111万4千キロワットから約110万1千キロワットまで、約1万3千キロワット低下しました。 ただちにプラントの運転状態を確認したところ、3台ある復水器のうち1台（B）において、海水が流れる配管を定期的に洗浄する操作が終了した直後、復水器（B）の連絡弁が開いたことにより、水室内へ流れる海水の量が減少したため復水器の真空度が低下し、電気出力が低下したことがわかりました。 そのため、速やかに運転員が当該連絡弁を閉めたことで復水器の真空度が復帰し、同日午前2時57分頃、電気出力も約111万4千キロワットに復帰しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 事象発生時も含め、現在も原子炉は定格熱出力で安定的に運転しており、また本事象による安全上の問題や外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 原因を調査した結果、復水器（B）の連絡弁を制御するリレーに一時的な不具合が発生したものと推定いたしました。 当該リレーを新品に交換し、動作確認を行った結果、正常な状態へ復帰しました。</p>
④	8月30日	3号機	タービン建屋（管理区域）における病人の発生について（区分Ⅲ）	—
⑤	9月6日	雑固体廃棄物焼却設備建屋	雑固体廃棄物焼却設備建屋（管理区域）における病人の発生について（区分Ⅲ）	—